海外での子育て時の授乳中の乳腺炎に対応したケース

東祐子

女性　３０歳

【主訴】授乳期の乳腺炎

【具体的内容】

1歳4か月男児に授乳中である。産後数か月の時にも一度右乳房外側の乳汁の流れが悪くなった時がある。その時はSil.、Phyt.で落ち着いた。今回は夫が出張で数日間留守であり、かなり疲労していた。また、普段食べていない高カロリーな食事をしたとのこと。その晩から急に乳腺炎の症状が出た。

【経過、レメディの選択】

2023/３/11　21時

発熱38度　右乳房外側のズキズキした痛み、

悪寒戦慄、頭痛、吐き気、起き上がれない。

Acon.30ｃ、Ars.30ｃ、Bell.30ｃを自分で粒で選択。

＋Sil.200ｃ、Phyt.200ｃ、Ferr-p.30ｃ、Bell.30ｃ、Ars.30c、Hep.30cを水ポーテンシーで。（里芋粉で乳房局部のシップ施行）

3/12　2時　熱40度　発汗多量、吐き気強い

（自分で　Ip.30ｃ、Cocc.200ｃ粒でとる。）

4時　熱38度　発汗あり、頭痛、吐き気、乳房硬結、痛み、発赤持続。

少し眠れた。

10時　熱37.8度　硬結やや縮小。

Ars.30ｃ、Sil.200ｃ、Phyt.200ｃ、Hep.30ｃ水ポで継続

15時　発赤軽減。

3/13　7時　熱36.5度　頭痛持続、硬結あり、吐き気無し

12時　排乳口より膿様の乳汁出てくる。

Ars.30ｃ、　Sil.200ｃ、Hep.30ｃ、Bry.30ｃ、

Phyt.のレメディが無く、Phyt.の手持ちのクリームを患部にぬる。

3/14　14時　助産師（日本人）に搾乳をしてもらいかなり硬結が取れたとのこと。

しばらくの間、Sil.200ｃ、Phyt.30ｃ、Kali-p.12x、を水ポで継続。

（Phyt.購入できたとのこと）

3/15　元気になったと連絡あり。　3/16　膿様乳汁ももうほとんど出てこないとのこと。

【レメディ選択の根拠】

海外での妊娠出産子育てであり、面倒を見てくれる人はいない。

基本キット、バースキット、キッズキット、バイタルキットを持っている。

「ホメオパシーin　japan 」と「妊娠と出産」の本も持っている。

海外に行く前にホメオパスより基本キットの講座は受けており、
また出産においても相談していた。手持ちのレメディで対処した。

Acon.＝講義、マテリアメディカ「突然の」発熱、炎症、ショック、恐怖」という特徴から
Ars.＝講義、マテリアメディカ「夜に悪化、心配、不安、心身の疲労衰弱」という特徴から
Bell.＝講義、マテリアメディカ「高熱、赤く，熱く、波打つような痛み」という特徴から
Sil.＝講義の中では、「バイタルフォースを高める、異物の排出」また、マテリアメディカでは、「膿を作りやすい、右側」という特徴から
Phyt.＝講義、マテリアメディカ「腺の腫れ、乳腺炎、乳房の膿瘍、乳が出なくて硬く腫れる、激しい乳房の痛み」という特徴から
Ferr-p.＝講義、マテリアメディカ「すべての炎症の始まり、炎症のある場所では鉄が不足する」という特徴から
Hep.＝講義、マテリアメディカ「膿の停滞、痛みが激しい」という特徴から
（Ip.＝講義、マテリアメディカ「吐き気」という特徴から）
（Cocc.＝講義、マテリアメディカ「吐き気、不眠から悪化」「身体的、精神的ストレスによる疾患、衰弱、右側」という特徴から）
Bry.＝講義の中で乳腺炎（白斑）にも良いと聞いた。マテリアメディカ「頭痛、症状の進行がぐずぐずしていて出し切れない、右側」という特徴から
Kali-p.＝講義、マテリアメディカ「授乳中の疲労困憊、育児疲れ、エネルギーが低い時」という特徴から

【考察】
海外での子育てであり、急激な症状の出現に慌てており、また側に頼れるのは夫のみで心細い状況にあった。手持ちのキットからの選択であったが、かなりのキットを持ち合わせていたので良かったと思う。時差があり連絡ができずに自分の判断で取ったレメディもあったが事前に講座を受けていたこともあり、スムーズに進んだのではないかと考える。
手遅れになると炎症がひどくなり最悪切開に至ることもあるので側にレメディがあるということは本当にありがたいことである。